

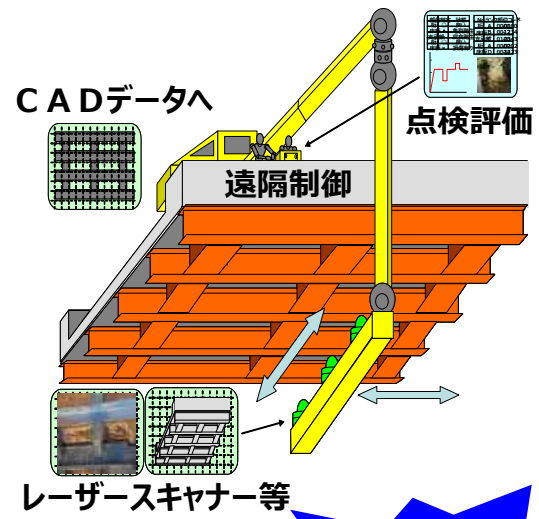
「Ⅲ. 世界に先駆けた次世代インフラの整備」の課題と取組の例

基本的認識と重点的課題

- ・人口減少、少子高齢化、自然災害への備え等の社会環境の急速な変化
- ・高度経済成長期に整備されたインフラが一斉に更新期を迎え、維持補修・更新への多額の投資需要の発生が想定

重点的取組

維持管理ロボットによる省力化



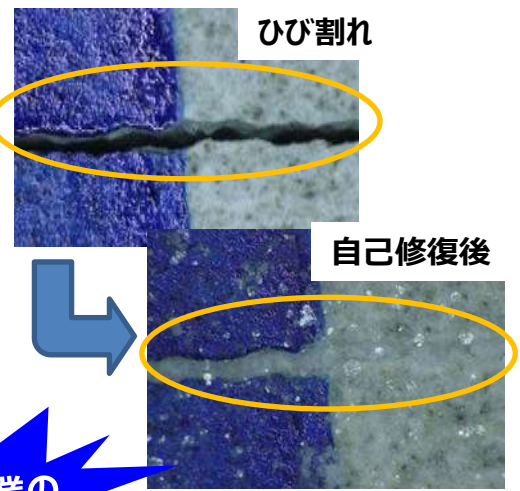
すばやくチェック

点検・診断技術等のシステム化による情報の自動集約



補修作業の負担軽減

自己修復材料による耐久性の向上



持続的に生活や産業を支えるインフラを低コストで実現
安心してインフラを利用できる社会

「Ⅳ. 地域資源を‘強み’とした地域の再生」の課題と取組の例

基本的認識と重点的課題

- ・地域における潜在的な活力や資源を活かし、地域経済の活性化が必要
- ・地域の過疎化、高齢化が加速し、農林水産業の担い手が減少
- ・地域独自の‘強み’を生かせず全国画一化が進行

重点的取組

ゲノム情報を活用した新品種の開発とブランド化



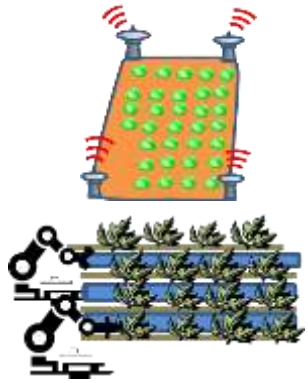
ゲノム情報の解析等により、新品種を生み出す期間を大幅に短縮すると共に、その技術を全国展開

地域での商品開発、ブランド化に貢献する画期的な新品種を迅速に開発



機能性成分が豊富な作物
品種開発のスピードアップ

ITやロボットによる生産性の向上 アグリインフォマティクスによる「匠の技術」の承継



ITやロボット等の工学技術を作物の管理、収穫等、様々な作業フェーズに導入し、農作業の省力化・効率化を図る

農家の匠の技をデータベース化するアグリインフォマティクス技術を活用することで、高収量・高収益モデルを実現する



農業のスマート化
匠の技を伝承

海外に目を向けた強い農林水産業の実現
働きやすく持続可能な農林水産業を持つ社会

「V. 東日本大震災からの早期の復興再生」の課題と取組の例

基本的認識と重点的課題

- ・東日本大震災の発生から二年が経過
- ・震災から早期に復興し、国民の生活や産業を再生させることは喫緊の重要課題
- ・震災の教訓を生かした更なる発展の機会となるよう科学技術イノベーションを積極投入

重点的取組

東日本大震災における被災者の健康状態及び大規模災害時の**健康支援**に関する研究



東日本大震災の被災者の健康状態等を継続的に把握。必要に応じて専門的なケアにつなげ、今後の支援体制、将来の大規模災害発生時の保健活動の在り方についての研究を行う。

子どもや高齢者が
元気な社会

食料生産地域再生のための先端技術の展開



東北地方に適したイチゴ養液栽培システム
(生産性の大幅な向上)

地域の
新ビジネスモデル

復興再生をさらに加速化
成果や活用事例を世界へ積極的に発信